

11月24日まで

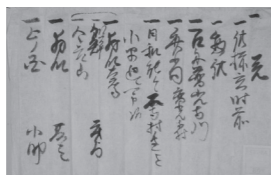
「井伊家の茶の湯-伝来茶道具をめぐる10の物語-」

江戸時代、茶の湯は武家に必須のたしなみとして重んじられ、大名家では、家格にふさわしい茶道具が多く収集されました。本展では、井伊家2代直孝(なおたか)が徳川家康から拝領した名物茶入(めいぶつちやいれ)をはじめとする、井伊家伝来の茶道具の名品を、エピソードとともに紹介します。

11月27日(水)~12月22日(日)

「彦根藩井伊家の鷹狩り」

彦根藩井伊家の当主は、將軍から鷹を拝領し、国元で鷹狩りを行い、獲物の鳥を將軍に献上しました。琵琶湖の内湖を船で巡りながら行う鷹狩りなど、具体的な様子を古文書により紹介します。



▲井伊直惟(なおのぶ)書下(かきさげ)

▶ギャラリートーク

11月30日(土) 11:00~11:30、14:00~14:30

事前申込:不要 場所:展示室1 ※観覧料が必要

▶関連講座「江戸時代の鷹狩り」

12月14日(土) 14:00~15:30

当日受付(先着60人) 場所:講堂 ※資料代(100円)が必要

常設展示「ほんものとの出会い」では、譜代大名筆頭・井伊家に伝来した名宝を中心に展示を行っています。



11月26日(火)まで

筆築 銘碎玉

雅楽で主旋律を演奏する縦笛。笛を納める家には、孔雀の羽を蒔絵(まきえ)と螺鈿(らでん)であらわします。羽の柔らかな質感表現と、数枚の大きな羽を蓋から側面にかけて巧みに配した大胆なデザインが見所です。



■【休館日のお知らせ】12月9日(月)、12月25日(水)~同31日(火)

■11月25日(月)~同27日(水)は、展示替えのため一部休室します。

チケット情報

ひこね市文化プラザ

令和2年1月24日(金) 18:30 グランドホール

カナディアン・スラス コンサート

スペシャルゲスト:近江高校吹奏楽部、河瀬高校吹奏楽部

指定 【11月16日(土) 9:00~予約開始】
一般 4,000円、高校生以下 2,000円
【11月9日(土) 9:00~予約開始】
友の会 3,800円
友の会・高校生以下 1,800円

小学生以上 託児あり(有料・要予約)



世界一有名なスラス・クインテットが彦根に登場します。近江高校と河瀬高校の吹奏楽部の各ステージと3組による合同演奏もあります。

令和2年1月25日(土) 16:30 グランドホール

加山雄三コンサートツアー2019-20 START

指定 【11月17日(日) 9:00~予約開始】
一般 8,000円
【11月10日(日) 9:00~予約開始】
友の会 7,800円

4歳以上 託児あり(3歳以下・有料・要予約)

若大将が6年ぶりに彦根にやってきます!作詞家「岩谷時子」、作曲家「弾厚作」の二人が生み出した楽曲を集め作られたアルバムをもとに行なわれている全国ツアーの彦根公演です。何年たっても色褪せない加山雄三の歌声をお楽しみください。

申込・お問い合わせ先 チケットセンター
☎27-5200 (9:00~19:00)
チケットはインターネットでも購入いただけます。https://bunpla.jp/

11月の休館日 5日(火)、11日(月)、18日(月)、25日(日)

【ひこね市文化プラザ各公演 発売初日の予約の取り扱い】
※電話予約・インターネット予約のみの受付となります。
※窓口でのチケット引き取り・販売は翌開館日から承ります。
◎表記の価格は全て税込価格です。

令和2年3月8日(日) 17:00 グランドホール

森麻季&林美智子デュオ・リサイタル

指定 【11月30日(土) 9:00~予約開始】
一般 4,000円、高校生以下 2,000円
【11月23日(土・祝) 9:00~予約開始】
友の会 3,800円、友の会・高校生以下 1,800円

日本を代表するオペラ歌手と評される森麻季と林美智子のリサイタルをお届けします。
ピアノ:山岸茂人



Maemi Mori 森麻季



Tomoko Hayashi 林美智子

小学生以上 託児あり(有料・要予約)

みずほ文化センター

令和2年1月18日(土) 14:00 多目的ホール

彦根亭 みずほ密席vol.34 新春落語まつり

指定 【11月10日(日) 販売開始】
一般 【前売】1,500円 【当日】1,800円
高校生以下 【前売】1,000円 【当日】1,200円

小学生以上 託児あり(有料・要予約)



笑福亭 兜瓶

毎年恒例新春みずほ密席!今年も笑福亭兜瓶を筆頭に初笑いを皆さんにお届けします。
出演:笑福亭兜瓶、笑福亭銀瓶、笑福亭風喬、笑福亭緑ほか

申込・お問い合わせ先 みずほ文化センター
☎43-8111 (9:00~17:00)

11月の休館日 5日(火)、12日(火)、19日(火)、26日(火)

◎高校生以下の券をお求めの方は、公演当日に年齢の確認ができるものをご提示いただく場合があります。
◎託児サービス:子ども1人1,000円。各ホールまで事前に要予約。

とまきの玉手箱

博物館からのメッセージ

御成で用いられた茶道具

葵紋天目台

江戸時代、茶の湯は多くの人々に親しまれるようになりました。とりわけ武家においては、儀礼や交流の場で欠かすことのできないたしなみとして重んじられました。
彦根藩井伊家でも歴代当主が茶の湯をたしなみ、譜代大名筆頭の家格にふさわしい茶道具が多く収集されました。井伊家伝来品の中からは災害などで失われたものの、現在、彦根城博物館が所蔵する伝来茶道具は900件以上にのぼります。
ここでは、これら茶道具から一点をご紹介します(写真)。これは、貴人に抹茶を差し上げる際に茶碗を載せる天目台とよばれるものです。木地に金時絵の技法で、円の中にフタバアオイの葉を三枚配した三つ葉葵の紋が表されています。これはよく知られるとおり、徳川將軍家とその一門の家紋です。
井伊家伝来品の中には、葵紋の道具が他にも数点あります。これらについては、主1つの可能性が考えられます。1つ目は將軍家から

の拝領品、2つ目は徳川家やその一門から興入れした女性の婚礼道具である可能性です。
しかし、茶壺や茶入、茶碗、香炉などの拝領の例は一般的にも多く見られますが、天目台は他に例が思い当たりません。一方で、婚礼調度といつには意匠がややシンプルに過ぎる印象があります。この作品は、拝領品でも婚礼調度でもない可能性があるのです。
ここで参考としたのが、「寛政度若君様御成之節御飾付之留(以下飾付之留)という古文書です。この史料には、將軍の後継である若君が井伊家に「御成、すなわち、訪問された際に使用された道具が列記されています。
若君御成とは、江戸時代を通じて井伊家のみが勤めた御用で、若君が生後初めてお宮参りをされた帰りに井伊家にお立ち寄りになるというものでした。記録上で5回の御成が確認でき、この史料は、寛政6年(1794年)9月の記録です。書画や文房



▶葵紋天目台(当館蔵)

具などの飾り付けの道具に加え、茶を点てる際に必要なさまざまな茶道具も列記されています。
この記述において注目されるのが、若君の刀を掛ける刀掛、若君のお茶を入れる茶碗と天目台、風炉や釜、水指などの茶道具一式を飾り付ける台子棚のそれぞれの条に、「葵御紋付」と記されている点です。どうやら、若君に供する道具には統一して葵紋が表されたようです。
実は当館所蔵の井伊家伝来品の中には、この天目台の他に、葵紋付の台子と刀掛があり

ます。これらは、「飾付之留」に記されたような御成のための道具と考えられるのではないのでしょうか。
今回取り上げた天目台のように、伝来の経緯や所業者、具体的な用途などが判明するものは、全体から見ればごくわずかしかありません。今後一つ一つの作品に焦点を当て、その形や表された模様、古文書の記述などを検証し、解明していきたいと思えます。
この秋、彦根城博物館のテーマ展では、井伊家伝来の茶道具にまつわる10のエピソードをご紹介します。伝来茶道具に秘められた物語をひもときながら、井伊家の茶の湯の歴史に触れてみてはいかがでしょうか。
【彦根城博物館学芸員 奥田暁子】